

新川通信

第2号

平成21年1月30日発行

題字 佐藤 大作

哀悼 佐藤大作会長

弔 辞

謹んで佐藤大作様のご霊前にお別れの言葉を述べさせていただきます。

貴方は温厚篤実なお人柄で、町内、社会、同級生の誰からも慕われ、尊敬され、私たちには素晴らしい人生の師でありました。若くして内野町青年連盟理事長に就任され、あの混乱期にその手腕を発揮し、頭角を表わし内野地域のリーダーとして、内野町に佐藤大作ありとその名を天下に轟かせました。その後、長年にわたり自治連合会長、その他、多くの要職に就任、リーダーとして指揮をとり、私たちは多くの事を学ばせて頂きました。まだまだ貴方を人生の師として尊敬し、これからも色々学ばせて頂きご指導を仰ぎたいと思っておりました矢先、突然のご逝去は早すぎました。

私は今、人の世の儚さ、人生の無常を憎みません。實に残念でなりません。

佐藤さんは世の為、人の為に多大な貢献をされ、正に男の人生街道に大きな足跡を残し、駆け足で天国に旅立たれました。本当にお疲れ様でした。また、自治連の研修会後のアトラクションに、頬かむりをし、尻まくりをしてユーモラスな踊りの特技をみせて私たちを楽しませてくれました。私たちに数々の教訓と感動を与えて頂き本当に有難うございました。

祭壇のお写真が私たちに向かって「頑張れよ」と声をかけておら



れるようです。

自治連は残された私たちが力を合わせて佐藤さんの功績を守ります。ご安心ください。

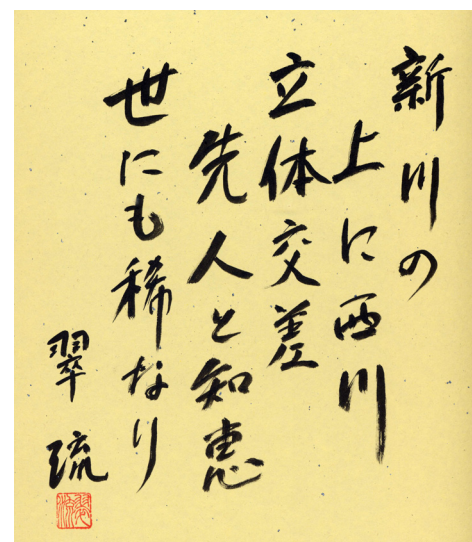
実りの秋の日に佐藤様のご逝去を悼み、その人徳を偲び慕い、お通夜に、今日の告別式に、大勢の方々が参列して下さいました。今更ながら人脈のおおきさ、広さに敬服いたしております。佐藤会長は善人でした。

どうか美しいお花が一杯咲いておるでありましょう極楽浄土で私たちを見守って下さい。ご冥福を心を込めてお祈り申し上げましてお別れの言葉と致します。

平成20年9月2日

内野地区自治連絡協議会

松岡 長孝



会員の笹川 悦夫さんの作品①

追悼

越後新川まちおこしの会

副会長 小林 勇

8月30日午前八時頃、佐藤会長が今朝心筋梗塞で亡くなりましたとの訃報を受け、急いで佐藤さん宅に駆けつけました。仏間の右隣の部屋で永眠しておられた佐藤さんと対面。

二日前の8月28日夕方の西区自治協議会委員会で、佐藤さんは私の右側の席について、帰りにはいつもと変わりなく微笑んで別れました。その佐藤さんが急逝、私は事の意外さに思わず呆然といたしました。佐藤さんの急逝は私にとっては正に暗夜に灯台を失った思いであって、これほどのショックはこれまでありませんでした。

省みれば佐藤さんは平成18年2月、有志で市内を流れる西川と、新川の立体交差など近代土木遺産としての新川。その歴史及び流域で育まれた文化について理解を深め、環境保全に努め地域のまちおこしに寄与することを目的とした「越後新川まちおこしの会」が設立されると、要請されて会長に就任、会の発展に努められました。佐藤さんは常に温厚着実、何事にも真心を尽くす人であり、地域のリーダーとして西地区自治連絡協議会連合会長のほか、幾つもの各種団体の会長を務め、常に一生懸命尽くされた人であります。

佐藤さんは忽然と去られてしまいました。私達は、佐藤会長さんの踏まれた跡を絶やすことなく歩んでゆかなければならないと思います。

佐藤会長さん、どうか安らかに
お眠り下さいませ
ようお祈り申
し上げます。



新川土手での観桜会で挨拶の故 佐藤会長

新川への思い

西蒲区 遠藤 武田 龍一

新川の河口近くで育ち、今も暮らしています。「越後新川まちおこしの会」の皆様方が活動計画されている「新川まるごと博物館構想」で、新川右岸排水機場の保存活動、それと新川の水質調査等を知り、強い関心を持ちました。

私はその保存活動を目指している新川右岸排水機場、新川河口排水機場に、昭和38年から停年退職する平成12年までの37年間、新川の排水業務に携わってきた思い出多い職場です。在職中には新潟地震、毎年数回は降る大雨、さらに台風、大雪などの自然災害に対して、地域内に水害を出さないよう精一杯配慮しながら勤務してきた職場です。

その職場が「越後新川まちおこしの会」の活動で、後世に残り、さらに新川



改修工事中新川右岸排水機場

の水質が改善し、ゴミの無い、水辺親水環境も整備され、水生植物、魚や鳥たちも豊かになり、美しい景観が回復すること。そして新川河口から釜淵川口まで新川全体が公園化し、大人も子どもも多くの人々が集い来る新川になること、「越後新川まちおこしの会」の活動で実現することを心から祈念しています。



昭和27年製作の貴重な排水機がまだ稼働中

魚の住める洗堀に！

内野町一番町 藤巻 英弥

6月1日は、全国一斉の河川水質調査の日であった。越後新川まちおこしの会から十数名の方々が参加し、新川、西川、広通江の透視度とCOD(化学的酸素要求量)を調べた。併行して洗堀も調べたら洗堀の水質が非常に悪かった。

	新川	西川	広通江	洗堀
透視度(cm)	58	60	50	35
COD	6	6	7	18

大昔(新川開削前)、洗堀は旧広通江の下流部であったが、新川開削によって断ち切れ、残りの旧広通江(洗堀)は一時水無し川となった。



新川が掘られる前からこの堀はあった

その後西川より取水し、逆流させて新川に流した。その頃はまだ魚の住める川であったが、昭和50年頃からの都市化に伴い、川沿い住宅が多くなり、水田も姿を消し、西川からの取水が出来ない、雨水と家庭排水だけの堀となった。

現在は新川合流部の水門を開けて自然流入し、水門を閉じて、一日2回ポンプアップして新川に排水し、洗堀の浄化を図っている。



洗堀のポンプ設置場

しかし、新川からの自然流入の水は、上流部まで達せず、泥がたまり、悪臭の発生源となっている。また、下水道管は洗堀沿川の全地域で完成しているが、その内の3割ほどは未だに家庭排水を流し続けている。



上流部は水が流れず、ドロが堆積していた

市では数年に一度、泥さらいをしているが、すぐに泥が溜まってしまう状況である。

越後新川まちおこしの会では、対策はないかと、市に状況を説明したり、地域住民の意見を聞いたりしてきた。

こうした中、昨夏、新潟市「地域活動費補助金」の申請を行い11月、洗堀全体の河床勾配の測量を実施し図面を完成させた。これを元に対策案を作り、市と地域住民との検討会を今後数回予定している。

今の汚い洗堀をきれいにし、是非とも魚のすめる、人々も住みやすい魅力ある内野町にしたいものである。



初めて河床勾配の測量を手伝う藤巻さん

ゆらりゆらりと新川下り

八子 迪子

夏の日差しがようやく和らいできた 9 月 27 日（土）、新川漁港を出発点として二艘のボートでいつも見慣れた新川を舟下りしました。

西川水路橋までは手漕ぎ、帰りはモーターボートに引っ張って貰いました。この日は少し風があり、かなり心配でしたが、救命具を身に付け乗船準備。私は金槌なので出発間際まで乗ろうか、止めようかと優柔不断でもたもたしていました。経験豊かな加藤さんの「大丈夫ですよ」の温かい励ましの言葉に背中を押されての乗船でした。



新川漁港より 2km を約 30 分でゆっくり楽しみました

一艘に 8～10 人、慣れない手つきでオールを漕いで、乗っていた皆、いっとき童心にかえってワクワク、ドキドキ。見慣れた筈の新川が、これまた不思議、新鮮な印象で迫ってきました。

ゆったり櫓を漕ぎながら見る川岸の景色はまた格別の趣で、途中、橋の上や、川岸の家から手を振ってくれる町の人々もおられました。

往来橋、新川元橋、学校山橋、月見橋、JR 鉄橋、三日月橋、崎山橋、大萩橋、農協橋など、身近な多くの橋の下を潜り抜けたことも新鮮な驚きでした。水面から橋下までの高さは様々。身をかがめてやっと通りぬけた橋も幾つか。大雨の時はどうなるのか？一寸心配。



{春、桜の頃、体験できると最高ですよね} が何とこの 4 月に実現できるとか！！

昔は泳いだり、潜ったりした年輩の方がたにはせめて舟に乗って往時を偲んでいただきたい。また、遊泳禁止の今、小、中学校の生徒たちには川面から眺める新川を是非体験し、親しみながら郷土の思い出作りをして欲しいという思いを強く感じた貴重な体験でした。

「水への思い」

ブラウン陽子

私が住むオハイオ州コロンバスは、太平洋からも大西洋からも遠い。職場の同僚の中には、「まだ海を見たことがないのよ。」と平然と打ち明けてくれる人もいる。大陸に暮らすとはこういう事なのか。だからと言って水が遠い訳ではない。カナダとの国境・五大湖では、村上の鮭に負けない見事なニジマスが釣れる。フィッシング・ライセンスは、スーパーに行けば簡単に発行してくれるし、そのライセンス収入は、州税として環境保護に使われる。川や湖へ釣りに出かけたり、猟が解禁になれば、鹿を追いかけたり、川も自然もスポーツや楽しみの範疇とされる考えが強い。



これからも海外会員のブラウン夫妻（琵琶湖疏水入口）

そのオハイオから新潟に越して来た。新潟は二度目。今回、夫が何より“うれしい”と言うのは、突然の遠来人を「越後新川まちおこしの会」の皆さんが長年の隣人のようにおつき合い下さったこと。すっかり内野の町にも溶け込み、

日課は、大学を出て新川の立体交差で折り返すウォーキングだ。

川のことを何も知らない私は、「川の立体交差」と聞いても、その姿を想像することができなかった。天井川なのだろうか？足のすくむ思いで水路鉄橋を渡り、水の交差を覗き込んでみた。なるほど、こうなっているのか。排水機場を巡った日、私の目には、長い時間の中で手当てに次ぐ手当が入ったこの川が満身創痍に思えた。見学スポットに降り立つ度に、操作される水位を目の当たりにした。

モニター画面には遙か河口が映し出されている。見事だ。しかし、川はあるがままたと流れるものではないのか。新川は人々の強い思いが動いた川だから、この川には使命がある。

それが今に託されている。川底に横たわる底樋はどうだろう。この川の歴史にフローとストックの遺産を見るならば、先人の知恵が生きる底樋は、間違いなく土木事業のストック遺産であり、底樋はその姿を我々に見せてくれる日まで、川底に静かに出番を待ち続けているように思える。

新川健康&クリーンウォーク

浜倉 剛

10月18日（土）、新潟市西区役所と本会の共催でおこなわれた「第1回新川健康&クリーンウォーク」に参加しました。区職員・会員・一般市民25名が榎尾地区の「立体交差点」に集合。小林会長代行と岡田西区長よりご挨拶があり、丸山事務局長より開催趣旨等の説明があった後、新川漁港を目指す下流組と田潟排水機場を目指す上流組の二手に分かれてスタートしました。

小生、上流組に加わり、赤とんぼに先導されて新川左岸を歩きました。さわやかな秋空、満々と水をたたえる新川、弥彦・角田を背にして広がる田圃。「はざ木」さえ加わればとの思いを残しつつも、これぞ西蒲原という田園風景を満喫することができました。



4月5日にも行われた新川清掃に参加の人たち

しかし、よく目を凝らすと、右も左もゴミまたゴミ。川岸と田圃の間が空地として放置され、伸び放題となった雑草の隙間からは、不法投棄された大量の建築廃材・廃家電・古タイヤ等が顔をのぞかせていました。これでは折角の景観が台無し。会員の藤巻さんから、空地を市民農園として整備すればゴミを捨てる不心得者も減るのではないかというアイデアが出されました。

1時間余で田潟排水機場に到着。「田潟干拓記念碑」に往時をしのび、しばらく休憩した後「立体交差点」に向けて再スタート。いよいよクリーン作戦の開始です。各自が袋を2つ携え、あちこちでゴミ拾い。往路で散らかりぶりを目にしていたせいか、皆さんの手際がいい。当初は道路付近に限定していたにもかかわらず、川べりまで降りて拾っているうちに、ゴミ袋は満杯状態。3つ目、4つ目もいっぱいになってしまいました。

12時近くに「立体交差点」に到着。下流組もほぼ同時刻に帰着。回収したゴミは約180kgになりました。不法投棄されたゴミの回収をどうするかという課題を残しましたが、いい汗を流すことのできた半日でした。



拾ってきた大量のゴミを前に参加者の記念撮影

鎧潟の復元を切に願う

前内野広通町自治会長 朝妻 敬恵

かつて蒲原平野にあった、県内でも有数の潟湖鎧潟が姿を消してから40年以上経つが、近頃とみにその復元を願う気持ちが増している。

理由は二つある。一つは治水上の観点からである。ここ数年、毎年のように新川下流部で河床固め、護岸補強、陥没した河岸道路の復旧など工事が行われているが、これらは何れも梅雨時などの新川の増水時、完成当時東洋一の能力を誇った河口排水機がフル回転することによって引き起こされる河床の洗掘、河岸土砂が流された事がその原因と考えられる。

鎧潟が健在で、排水機も存在しなかった昭和30年代までは、鎧潟がそれなりに洪水調節機能を果たし、新川流域は自然排水が行われていた。ところが、戦後盛んになったガス採取による地盤沈下のために、新川の排水不良、塩水クサビの遡上による農業被害が出始めた。また農地拡大の気運が高まり、遂に鎧潟の干拓と、巨大排水機場の設置をもたらしたのである。



かつての福島潟より大きかった鎧潟

しかし、干拓するにしても、一平方メートルも残さないやり方は如何なものか？私は不可と言いたい。かの八郎潟では、干拓の本場、オランダ人技術者の意見を取り入れ、水路も調整池も残されたと聞く。

鎧潟干拓の立案者には人の力で何でも出来るという思い上がりがあったとしか考えられず、このような人々には、パナマ運河建設に参加した唯一の日本人であり、大河津分水補修工事を指揮した内務省技師 故 青木 士の

「満象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ」

の言葉を呈したかった。

理由の二つ目は郷愁である。理屈ではない。実を言うと私は、鎧潟の全容は一度しか見ていない。その一度というのは、昭和9年か、10年のことだったと思うが、当時の西蒲原郡民の募金によって献納された、海軍の水上練習機が霞ヶ浦から飛来し、鎧潟で一般披露を行った時である。以来、鎧潟に接することは無かったが、人生の終盤が近づくにつれて、子どもの頃の物事や経験したことが無性に懐かしく思われてきた。中でも鎧潟などはその最たるものと言ってよい。

「新川
鎧潟ありき」の碑



考えてみれば、信濃川程の大河の下流域に、多くの湖沼や湿地が存在するのは極く自然なことであり、そういう意味でも鎧潟の復元を切に願う。若し復元が完成すれば、魚や水鳥たちの楽園になることは間違いないし、西川の水が導入できれば、新川にはサケの遡上も期待できる。

心配される費用は、権利関係の調整がうまく出来、公園化をさけて人工物の配置が最小限に止められれば、それほど高額とならないと思う。

その方が自然度の高い、生物にも人間にもより良い環境が生まれると思う。なお、求めがあれば分相応の出捐（しゅつえん＝寄付）には喜んで応じたい。



自然の恵みの多かった鎧潟（星野 五郎 画）

鎧潟に水上飛行機が来たこと

星野 五郎

今から70年も前の昭和11年7月19日のこと。私は小学校一年生の8歳で、鎧潟に水上飛行機が三機編隊で着水しました。

西蒲原號で、郡民が献上した偵察機の披露の式典と新川改修工事完成の祝いを兼ねて飛来しました。山本五十六元帥（当時中将）、鈴木莊六大将が参列し、潟周辺には20万人の郡民の歓迎を受けました。三機の水上新飛行機は鎧潟上空にアクロバット飛行を披露して立ち去って行きました。お二人の数日間の滞在中には、花火大会、盆踊り大会、相撲大会、農具市、飲み屋、露天商で賑わいました。



鎧潟の河童民話より（星野 五郎 画）

私も母親に連れられ飛行機を見学したのを覚えております。

「鎧潟に河童が棲んでいたら、一番近くで良く見えたでしょう」



関係者と参加の会員で記念撮影

新川・西川立体交差解説ガイド板について

相楽 治

川の立体交差の解説ガイド板の予算が付いたからそのデザインをとというのでほとんどの資料を加藤功氏から頂き、監修を大熊孝新潟大学工学部教授にお願いすることを条件に始めました。新潟県新潟振興局地域整備部計画調整課長の高橋亮一氏に細かく指示を出して頂き多くの想いが届いて設置できたと言えます。

舞台裏を明かすと、大卒の資料整理やレイアウトを何度も繰り返したのですが私の家内がアルバイトでデータ処理や一部下絵を手伝ってくれましたし、旋風グラフィカの高橋さんが最終原稿を看板用にデザインしてもらい看板制作企業にバトンタッチして設置日も延期していただきようやく間に合ったというのが本当です。この間、丸山事務局長から何度も催促があったようですが高橋課長が良いものを造るので待つてほしいと何度も頼んだのではと推測します。

設置看板の除幕式なんて聞いたことないけど大勢の方々が参加され無事設置が完了しまし



た。これが新しい情報発信になればと期待いたします。

第一回 新川野外音楽祭顛末記

丸山 幸平

5月31日(土)、西川、新川の立体交差の下手、静田神社境内で標記の音楽祭が開かれた。雨だったけど楽しいイベントだった。

◇ 事の発端

小生は西地区公民館の版画と木彫りの会に、10年程前から通っていたが、2年前に利用者協議会の役員の仕事が回ってきた。役員の仕事の大半は、秋の文化祭、芸能発表会のためだけだった。利用者団体の数は、昨年で91, そのうち音楽関係だけで19団体。同じ民謡でも3団体、コーラスは3、カラオケは4団体と賑やかだ。秋の芸能発表会だけでは勿体無い。これが2年間、役員をした実感だった。

一方、越後新川まちおこしの会は2年目の昨年は水路橋付近のクリーン作戦、お花見、水路橋説明板の設置と除幕式、全国一斉水質調査、蓮久寺法要参加と盛り沢山だ。

両方を結びつけ、楽しい野外音楽祭をやれないか？ 新川のほとりで。静田神社で。

それを提案できるのは両者を知っている小生しかない。と思い、役員任期最後の総会(4/21)終了後、“蛮勇”を振り絞って約70~80人の参加者に「趣旨」を述べ、野外音楽祭参加依頼のチラシを配布した。

申し込み締め切り：5/15、音楽祭 5/31(土)
演奏は10~12時。ギリギリの日時だ。

◇ テンヤワンヤの準備

新川まちおこしの会からは年度当初の計画に無いだけに批判続出。しかし、今実行に移さなければ、容易には生まれないイベントであるだけにじっと我慢。素直に会議で軌道修正しながら事を進めた。準備の段階から新任の小川西地区公民館長の協力は有難かった。共催も嬉しかったし、前日のステージ作り、当日の雨の中での気配りにも感謝したい。

ステージ作りには10人前後の会員が協力、中央公民館から畳2枚ほどの、かなり重い移動



松林に囲まれた静田神社(新川と旧広通江の合流点)

式のステージ6枚を2トン、トラックで運んでくれた鶴の友の樋木社長さん。さらにはレベル計でステージを水平に、また、雨に備えて青いビニールシートを上張り巡らせた。神社所有の六番町の松岡町内会長さんは祭りの色とりどりの幟を20本ほど参道にたててくれたし、さらに利用者協議会からは山車まで持ってきてくれた。多くの方々がボランティアで野外音楽祭を盛り上げ、華やかにする準備をしてくれた。小生は30cm四方に一字の大きく墨で、「第一回新川野外音楽祭」と記した垂れ幕を作り、入り口に脚立を持って行って吊り下げ、一寸格好をつけた。参加団体として申し込んできたのは9団体、半日で丁度良い数だ。



手作りの垂れ幕が参加者を迎えた

◇ 音楽祭当日

この音楽祭はいわば、地元の歴史遺産を大事にしたまちおこしの会のメンバーと、公民館での音楽活動をしているグループの協同作業で、はじめて実施できた代物である。

さらに新潟大学のジャズ演奏グループが積極的に参加し、本格的なスピーカーなどを用意

してくれた。

音楽祭は初めにまちおこしの会の佐藤会長、小川公民館長の挨拶の後、一番町藤巻町内会長の絶妙な司会で、尺八合奏（3人）、ギター演奏（5人）、手話コーラス（18人）、詩吟（2人）、カラオケ二組、最後に4人の本格的な新潟大学のグループのジャズ演奏と賑やかだった。



小雨の降る中、佐藤会長の挨拶から始まった

津軽三味線と民謡のグループが雨の為、当日になっての参加中止は残念だった。天気の方は今ひとつで、開始の頃はくもりが、途中から小雨、さらに一時かなりの降り方にもなったが、出演者たちは気にもせずそれぞれに精一杯の演奏を続けてくれた。

なお、演奏の終わった後で、新川を校歌の中に歌いこんでいるという内野小学校の校歌が、古侯夫妻の音頭で賑やかに歌われ、古い卒業生たちを喜ばせたことも付け加えておきたい。

◇ 感想

江戸時代からの歴史的な遺産の地での日頃の公民館活動の成果の披露、そこでは心地よいハーモニーが生まれ、出演者は勿論、参加者たちも大いに満足できたひとときであった。なお、当日の演奏の様子は、会員の加藤 功さんが克明に記録。後日、DVDとして参加団体の方々に配布。参加者へのアンケートで、以下の感想が寄せられた。

神社の境内が良かった。手づくり又良し、参加して大変良かった、会場のムードが良かった、内野小学校校歌、合唱素晴らしかった。手話コーラスも素晴らしかった。雨天で参加できず残念でした等。

一方で移動式トイレ設置の要望、マイクの数不足、PR案内や企画段階の問題の指摘、開催日を5月中旬に等、要望もかなり多い。

来年度の取り組みについては、早い段階で先ずまちおこしの会での十分な議論、その上で公民館、利用者団体協議会との打ち合わせが不可欠となる。

何れにしろ、さらに楽しめる魅力的な春の野外イベントとして、地元の方々から愛されるものにしてゆきたい。



素晴らしかった手話サークルによるコーラス

◇ ひとこと

今回のイベントを通じて異業種の方々の結びつけの重要性を改めて痛感した。今回は公民館の利用者団体とまちおこしの会の結びつけだった。街の活性化もこうした結びつけの繰り返いで、かなり進むのではないだろうか？お互いに見、関係のない者同士でもやれる可能性は十分にある。このことはあらゆる世界にみられることだ。いわゆる境界領域に残る数多くの問題もその一つだ。

良い勉強をさせて頂いたと感謝している。

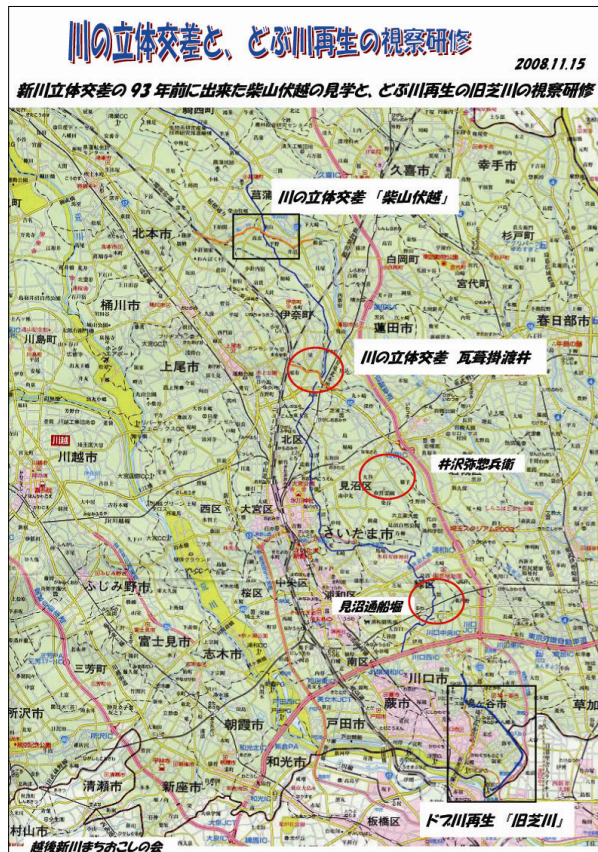


雨の中で最後まで聞き入って頂いた皆さんに感謝です

「川の立体交差とドブ川再生の先進地視察」

加藤 功

11月15日（土）午前6時50分、新潟ふるさと村駐車場へ、越後新川まちおこしの会会員10名が集まり、10名乗りのレンタカーで7時、一路埼玉県川口市に向かった。



目的はドブ川再生「旧芝川」と、川の立体交差先進地である「柴山伏越」の二つを視察するものであった。「旧芝川」と、「柴山伏越」のある旧荒川とは全く別の河川で距離も約40km離れているが、見沼代用水に関係している。

かつて埼玉県さいたま市付近に見沼と呼ばれた巨大な沼があった。享保の改革のため新田開発を薦めていた八代将軍吉宗は、伊澤弥惣兵衛を登用して、見沼の干拓と用水確保のため利根川から約80kmを開削して灌漑用水とした。

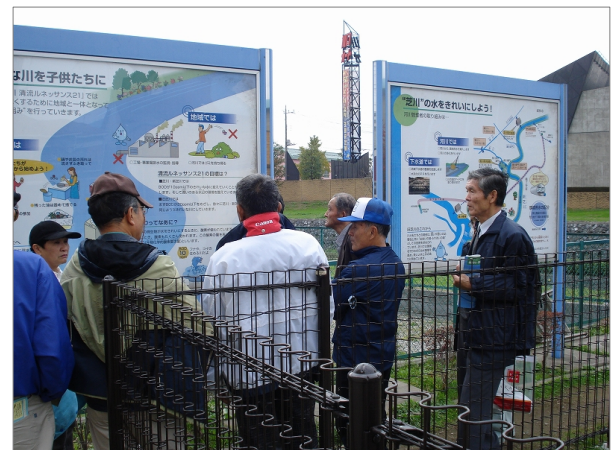
◆大都市の中のドブ川「旧芝川」

「芝川」は、見沼の排水を担う河川で別名、悪水、見沼中悪水路といわれた農業用排水河川である。江戸時代より荒川の逆流や溢水により洪水被害を起こしてきた。大正時代芝川改修工事や護岸工事・築堤が行われた。

しかし、その後も水害が跡を絶たず、川口市の上青木町から荒川までの新芝川放水路を開削、これにより「旧芝川」は昭和40年水門によって閉じられた。結果、生活雑排水などの流入により河川の汚染が進みドブ川と化して行った。

2006年3月、テレビ朝日の「素敵な宇宙船地球号」で、旧芝川再生プロジェクト～大都会ドブ川の奇跡～として取り上げられ、ドブ川再生への一歩が進んだ。その後、異例の4回にわたる浄化活動をテレビが取り上げると共に県がヘドロ除去や水質の浄化対策や低水路や遊歩道の整備を実施し全国的に有名になった。

私たちは新川の今後の参考にするため、その活動の成果と住民の関りについて、この付近で活動している荒川クリーンエイドフォーラム副会長で、荒川夢クラブ事務局長の林美恵子さんから約1時間「旧芝川」を案内して戴いた。



ホテルと間違える程立派な川口オート場向かいで説明の林さん

2年前私はテレビこの放映を見て、「旧芝川」とはどんな川で、どのような再生を行っているのか興味があり1度訪れた。市街地を流れ生活雑排水が流入するため水質が悪く川底にはヘドロが堆積しているが、近年は清流を復活させるための努力が官民で協働し行われている。

林さんは資料を配り歩きながら、埼玉高速鉄道線のトンネルを活用して荒川の水を綾瀬川と旧芝川に注ぐことで、水質を改善する工夫が行われているとの話をした。

見学予定時間を30分超過した午後12時50分、まだ半分も見ないが「柴山伏越」での待ち合わせがあるため林さんとお別れした。

◆川の立体交差「柴山伏越」

「柴山伏越」は新川が開削される 93 年前の享保 12 年 (1726) から 13 年にかけて『紀州流』の達人・伊澤弥惣兵衛が見沼に代わる用水として、わずか半年で見沼代用水路を完成させた。

その際、元荒川と見沼代用水が交差する為、サイフォン形式で川を立体交差させた。当時の大きさは新川の底樋より長く、国内最大級であったと言われている。



柴山伏越の説明板には、舟運のための水路が上部にもあった

「旧芝川」の後、「見沼通船堀」と「瓦葺掛渡井」を見学予定であったが全てやめて、昼食も高速道路の P A で 20 分間で済ませ「柴山伏越」に向かい 2 時過ぎ、白岡町観光協会の山本一夫さんほか 3 名の方々が、井澤の墓のある常福寺脇にある「柴山伏越」で待っておられた。

ここへ来る 2 週間位前に、白岡町教育委員会に「柴山伏越」を見学に行きたいので、現地案内をして頂ける方の紹介を電話でお願いした。

ここ白岡町は、約 4 km 四方の町に 5 万人の方々が住み、この狭い町の中に 8ヶ所の川の立体交差があるとの説明を受け、その内の 4ヶ所の見学をさせて頂いた。

山本一夫部会長は会社勤めをしながら、白岡町のみならず埼玉県内の川の立体交差を調査研究している方であった。



最後に参加者全員で記念撮影

徳川家康が関東に入って以来、武蔵国の河川土木普請を指揮していた伊奈家の手法は、**関東流**と呼ばれ、武田信玄が築いたといわれる信玄堤を作り上げた**甲州流**に起源がある。これに対し、伊澤のとした手法は**紀州流**と呼ばれる。特徴として、取水と排水の分離が挙げられるとの説明であった。

予定時間を 1 時間も超過した午後 4 時少し前新潟に帰るべく川越 I C に向かったが、夕方のラッシュに引っかかり新潟帰着は 8 時であったが、説明をして頂いたお二人に感謝します。

今回の現地視察は、河川環境管理財団の助成を受けての研修であったが、二つの目的を一回で済ませようと少し時間的に無理があった。次回の研修視察は少し時間の余裕をもって、行きたいと反省している。

◆川の立体交差サミットの開催

今年 7 月より新潟市は「水と土の芸術祭 (仮称)」を計画し案を募集している。

当会でも新川開削時に使った「踏み車」を数台自分たちで作り、その効果を体験するものや、新川暗闇の銘板設置などを提案している。

全国には川の立体交差は目立たないが、今回行った埼玉県には多く存在するほか、神奈川県、滋賀県、熊本県、宮城県に現在もある。

新川の水質は悪く汚れているが、川の立体交差は農業・文化・歴史土木遺産であり、西区の宝である。この宝を新潟市民に知って戴くと共に全国の立体交差のある自治体、団体、研究者に呼び掛け、新潟市で第一回の「川の立体交差サミット」の開催案を実行委員会に働きかけ、これらに参加する人々を呼び水に、観光・交流人口を増やし、水と土の新潟を全国に発信したいと計画している。

見沼代用水路と井澤弥惣兵衛

見沼代用水路は利根川の水を利用し、埼玉県の東南部を灌漑する為、紀州流の井澤弥惣兵衛が 280 年前に「見沼溜井」1200 町歩を干拓しこの沼の代わりとなる用水を利根川から約 80km の「見沼代用水路」を開削し、併せて沿川の新田開発の代わりに掘られた用水路である。

編集後記

事務局長 丸山 幸平

会員の皆様、ご壮健で新しい年を迎えられたこと、お慶び申し上げます。

会発足後 3 年目となりました。「泳いだ、食べた新川」を目標に、地域の方々に親しまれ、信頼され、魅力ある会としてさらに充実の一年にしてゆきたいと願っております。会員各位の一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

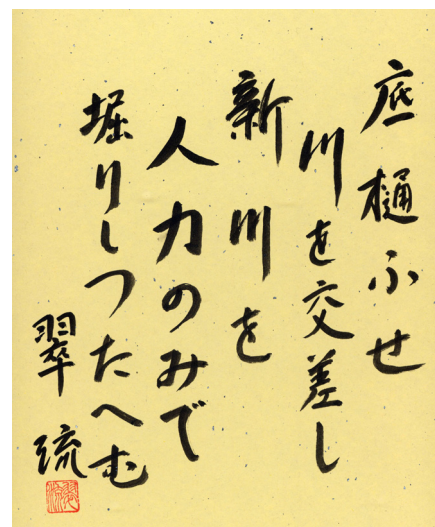
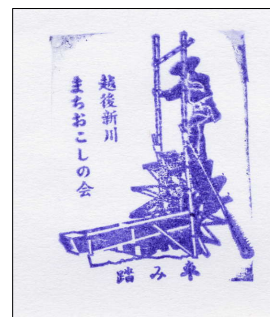
昨年夏の佐藤会長の急逝には関係者一同言葉の失いました。巻頭にお二方からの哀悼の言葉を掲載致しました。葬儀には「越後新川まちおこしの会会員有志」(20 人)として大型の花輪と生花を供えさせて頂きました。

◆今年度の歩みを振り返ってみます。

月	日	曜	行 事	参加数
4	5	土	西川水路橋周辺のクリーン作戦	15 人
4	18	金	水路橋下手左岸で観桜会	12 人
4	29	祝	水路橋説明板除幕式、新潟地域振興局長、西区長、農業水利事業所課長	53 人
5	18	土	排水機場、揚水機場見学及び交流会	15 人
5	31	土	第一回新川野外音楽祭, 7 サークル	40 人
6	1	日	全国一斉水質調査参加	8 人
6	26	木	金蔵坂下公園予定地で、水と土の芸術祭(案)の説明と要望書提出	15 人
6	26	木	「新川」講演、第四、内野支店	40 人
7	1	火	蓮久寺法要	7 人
7	5	土	新川ウオーク下見	4 人
7	25	金	洗堀浄化作戦に市から 20 万円、河川管理財団から 50 万円の助成	
8	30	土	佐藤大作会長急逝	
9	27	土	新川川下り(河口⇄水路橋)及び新川の流域 16 箇所の水深測定	30 人
10	18	土	第一回新川健康&クリーン作戦	25 人
11	15	土	ドブ川再生(旧芝川)と川の立体交差の先進地(柴山伏越)見学	10 人
12	15	月	定例会と淹寿して忘年会	13 人
1	9	金	洗堀浄化対策検討会	10 人
2	21	土	第 3 回総会、記念講演「亀田郷環境再生構想から学ぶ一水辺の宝づくり」	

この間、世話人を中心とした定例会を毎月第 3 月曜夜開き、議論を重ねて参りました。世話人の方々のご協力に改めて御礼申し上げます。

ご存知の新潟市「水辺イベント情報」に当会のイベントも今後できるだけ載せることとしました。健康&クリーン作戦も載せて頂き、同時にスタンプラリーにも参加するという事で、スタンプを作って貰いました。約 200 年近く前、新川掘削の時大活躍した「踏み車」を象ったものです。可愛がってください。



会員の笹川 悦夫さんの作品②

入会案内

本会は、新潟市内を流れる西川と新川の立体交差などの近代文化遺産とも言える、新川の歴史およびその流域で育まれた産業や文化について理解を深め、その環境保全につとめながらさまざまな活動を通じて、流域および周辺地域のまちおこしに寄与することを目的に平成 19 年 2 月に発足しました。(現在会員数 98 名)

年会費 1,000 円です。ご入会をお待ちしています。

新川通信 - 2 号 年 1 回発行

●発行：越後新川まちおこしの会

●事務局：新潟市西区五十嵐中島 1-16-16

電話・FAX 025-261-0037

E-mail k.h.maruyama@net-web.ne.jp

この新川通信 2 号は河川環境管理財団の助成を受けて作成されました